

旭川医大病院ニュース

就任にあたって

事務局長 高橋 龍郎



四月一日付で事務局長に就任いたしました高橋でございます。

前任は東京学芸大学でその前は静岡大学の勤務でございましたので医科系の大学に勤務するのは今回が初めてでございます。また、北海道に勤務するのも初めてです。職・住共今迄と違った環境でのスタートとなり、新天地で初心に帰って第一歩を踏み出したというのが現在の心境であります。

本学への勤務が内定してからは毎日の気象情報が気

四月一日付で事務局長に就任いたしました高橋でございます。前任は東京学芸大学でその前は静岡大学の勤務でございましたので医科系の大学に勤務するのは今回が初めてでございます。また、北海道に勤務するのも初めてです。職・住共今迄と違った環境でのスタートとなり、新天地で初心に帰って第一歩を踏み出したというのが現在の心境であります。

本学への勤務が内定してからは毎日の気象情報が気

になりまして、特に今年の冬は寒かったせいでしょう。旭川の気温は連日マイナス二桁の数字が示されており、着るものをはじめとして何を準備したらいいのか、暖房は大丈夫だろうか等々心配いたしました。が実際に旭川に着任してみるとそれらの心配は全くの取越苦労であったような気が致します。清水学長はじめ皆さんからこれからの旭川はいい季節ですよと云われそれに期待しているところなんです。

私は元々大蔵省に勤務しておりましてその間特殊法人等に三回程出向し、平成三年四月から文部省に転任して参りました。そのようなことから全く異質の職場に就くことが何回かありましたがその都度申し上げてきたことは、自分は全く素

題字は吉岡元病院長
[編集]
旭川医科大学医学部附属
病院広報誌編集委員会
委員長
牧野教授(第二内科)



人だからその組織、職場に長く勤め、仕事面とかそれまでの経緯等に精通している人達から見れば私の云っていること、考えていることは非常にピントのずれたトンチンカンなことを云っているように聞こえるかも知れませんが、その組織あるいは職場の外から見た時に私のような見方なり考え方もあることだから耳を傾けてほしいということでした。本学でもそのようなことを考えながら仕事をしていきたいと思っております。

今、国立学校、附属病院に対する社会の要請も非常に多様化しそれに如何に对应していくかと云うことで各

就任して

医事課長 高橋 龍郎



今冬は記録的な豪雪といわれ、四月一日に旭川にきたときは、まだ周り一面に雪があつた。

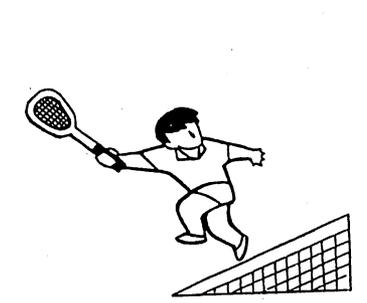
冬は冬らしく寒い方が夏は暑くなるということを聞いていたが、五月半ばになつても今年はまだ暖かくならず、道東からはまだ時期はずれの雪便りが届く程である。

丁度三年前仙台に赴任したときも、四月末だというのに一面雪に覆われ、その年は冷夏で米騒動(?)が伝えられた。

大学とも必死になつて改革に取り組んでいるところだと思ひます。

本学においてどのような改革が必要なのか等はまだまだ不勉強で十分把握しておりませんが皆様からいろいろ

な機会に話を聞かせて頂き、大学のため附属病院のためい方向に持っていければと思つております。微力ではありますが全力を尽くしたいと思つておりますのでよろしくお願い致します。



早く北海道らしい爽やかな気候にめぐりあいたいとおもっている。

というのも、仙台にいく前の二十数年間は北海道大学、室蘭工業大学また北海道大学と勤務していたため、北海道のカラーツとした天候を懐かしんでいるせいもある。

医事課は初めて経験する職場になりますが、この一ヶ月半聞き慣れない言葉

しかし内部からこの一ヶ月半を過ごすにつれ、大学病院は現在厳しい情勢の中にあると感じております。

フロント業務を中心とした患者サービス、診療報酬・査定減等の保険請求、定員減に伴う業務の見直し等々、病院運営の改善に関連した容易でない対応を求められるものばかりです。

私にどの程度出来るかわかりませんが、皆様のご意見とご協力を得ながら、少しでも役に立つことが有れば努力していきたいと思つておりますので、よろしくお願ひします。



(専門用語)が随所に飛び交い戸惑うことばかりです。今までの仕事が医事業務には直接関係なかつたこと、また幸いにも個人的に病院のお世話になることもほとんど無かつたため、まったくの門外漢としてすごしてきました。

看護の日

五月十一日は近代看護の母と呼ばれるフローレンス・ナイチンゲールの生誕の日です。日本では90年にこの日を『看護の日』と制定されました。『看護の日』は人々が健康で安全な生活を送るために欠くことのできない「看護」を見直す「国民一人一人のための日」という主旨です。この主旨に沿って当院看護部でも五月十三日から十七日迄の看護週間に色々なイベントを行いました。玄関ロビーでの看護パネル展・音楽の夕べ・ふれあい看護体験等です。広く一般市民へ呼びかけての「ふれあい看護体験」は高校生二十五名、一般の方

々六名の参加がありました。白衣とキャップを身につけて午前半日、配属された各々の病棟で看護婦から説明を受けた後、入浴できない方の身体を拭いたり、足を洗ったり、車椅子移動の介助や話し相手をしたり等、入院している患者さんとの



ふれあいを体験しました。参加した方々からは「100gの赤ちゃんを抱いた時はすごく小さく壊れそうで驚いた。生まれたときは800gしかなかったそうで生命力はすばらしいと思いました。」「赤ちゃんは、赤ちゃんと一緒に一杯生きています。そういう姿をみて、自分も精一杯何かをしてあげたいと思った。」「看護は日常においての注意力、気の配りなど看護される方にとつていのかなど常に頭においてすることが大切なんだと感じました。」「専門的なケアも必要ですが、やはり大切なのは、日常的なケアや温かい心のふれあいなのだと実感しました。」などの感想がきかれました。こうした色々なイベントを通して市民の皆さんは看護の心と大切さの理解を深めることができたのではないのでしょうか。最後にこれらのイベントに多大な御協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。



一杯何かをしてあげたいと思った。」「看護は日常においての注意力、気の配りなど看護される方にとつていのかなど常に頭においてすることが大切なんだと感じました。」「専門的なケアも必要ですが、やはり大切なのは、日常的なケアや温かい心のふれあいなのだと実感しました。」などの感想がきかれました。こうした色々なイベントを通して市民の皆さんは看護の心と大切さの理解を深めることができたのではないのでしょうか。最後にこれらのイベントに多大な御協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。



一杯何かをしてあげたいと思った。」「看護は日常においての注意力、気の配りなど看護される方にとつていのかなど常に頭においてすることが大切なんだと感じました。」「専門的なケアも必要ですが、やはり大切なのは、日常的なケアや温かい心のふれあいなのだと実感しました。」などの感想がきかれました。こうした色々なイベントを通して市民の皆さんは看護の心と大切さの理解を深めることができたのではないのでしょうか。最後にこれらのイベントに多大な御協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

看護部総務委員
大槻 伸子

皮膚科入局にあたって

皮膚科 南 仁子



旭川の厳しい寒さもようやく終わり、満開となった桜をみると、ポリクリと部活で精一杯であった毎日から一年がたったことに気づかされます。学生時代最後の年は、おそらく自分の人生の一つの分岐点となったであろう進路の選択をし、私は旭川医大皮膚科に入局することに決めました。学生時代の講義がとても興味深かったこと、自分も小さな頃皮膚科によく通院していたこと、またその時の先生のように自分もなりたいたいと思ったことなど色々な要素が組み合わさって数ある科の中から皮膚科を選択しました。

前の仕事をこなすことだけで精一杯の状態です。教授の前での初めてのプレゼンテーションの時には、患者さんから「先生、そんなに緊張しないで。リラックス、リラックス。」と逆に励まされてしまいました。今はまだ気持ちにゆとりが持てななくてたぶんこのような状態の私を患者さんは一番敏感に感じているのだと思います。研修医という一番患者さんと身近な立場にいるのだから、自分の言動、行動には気を配り、患者さんの必要としている情報を適

確に伝え、そして心が和むような日常会話をしたいものだと考えています。皮膚科の先生方は、とても勉強熱心でいろいろな教えて下さる一年上、二年上の先輩との知識量の差はいつまでたっても埋めることができないような気がします。でも、きっと先生方も毎日大変な思いをして今の状態にあると思うので、私も一年、二年後にはその先生方のようになっていたいと思っています。そのためには時間を上手に使わなければなりません。病棟から医局に戻って、受け持ち患者さんについての勉強や、病理組織のスライドを見ているうちに、あつという間に時間が過ぎてしまいます。一日の時間は限られているのですから、つと要領良く勉強しなければならぬと思っています。

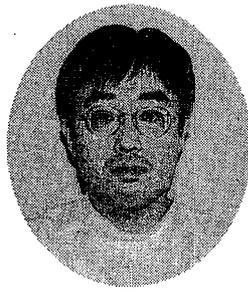
皮膚科の場合、私達一年目研修医のカリキュラムがしっかりしており、上の先生方は親切に指導してくださいます。何でも聞くことができます。何でも聞くことのできるの今のうちです。からこの時期を大切にしたいと思っています。そして五年後、十年後に、自分の選択は間違っていないかと思えるように頑張ろうと思っています。きっとこの先、辛いこと楽しいことなど様々な出来事が待ちうけ

Fresh Voice

ていると思ひますが初心を
忘れず自分の理想の医師像

入局にあたって

泌尿器科 池田 和彦



仕事を始めて一カ月以上
がたちました。仕事を始め
たとっても、まだまだ教
えられることばかりで、あ
たふたしている毎日です。
よく考えてみると、ほん
の二カ月前はまだ国試のこ
とで頭がいっぱいで、落ち
たらどうしようとかそんな
ことばかり考えていました。
また、その間ほとんど体を
動かすことがなかったので
体力が落ちたようでもと
もとなかったけど、大変
疲れる毎日です。最近はや
うやく毎日の流れだけはつ
かんだ(?) ような気がし
ますが、とにかく、やるこ
とほとんどが初めての事で
患者さんに迷惑をかけてし
まうことがたびたびありま
した。特に受けもちの患者
さんが多くなると、混乱し
て、だれがどうという検査を

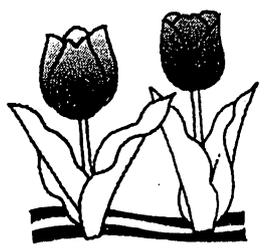
に近づくことのできるよう
にと思っております。

やるのかとか、処方方がどう
だとか、わからなくなるこ
とがたびたびあります。そ
れと、検査など行うとき、
コンピュータに入力するの
が、あまりキーボードを使
い慣れていない私にとつて
は大変な作業でして、手術
となると点滴の入力など一
時間ぐらいかかりながら苦
闘しています。そんな中で
自分の書いたカルテを学生
が写しているのを見ると、
もう就職したんだと思うと
同時に、しつかりしたこと
を書かなければいけないと
も感じます。
話は変わって病棟の話で
すが、泌尿器科は7階西で
皮膚科と同じです。泌尿器
科が一年目二人、皮膚科が
一年目四人と大変にぎわっ
ています。ポリクリ学生、
看護学生と勢ぞろいすると、
いる場所がなくなるぐらい
です。昨年は泌尿器科一人
皮膚科一人でさびしかった
と二年目の先生は言ってい
ます。それを聞くと、今年
はよかったなあと思います。
また、自分も病棟ではまだ
オロオロしています。そ

のような人が、自分以外に
新人看護婦さんを含めて七
人もいます。病棟の看護婦
さんも、みんないい人ばか
りで、わからない事は親切
に教えてもらっています。
(おこられる事もよくあり
ます。)

次に医局について書きた
いと思います。泌尿器科は
医局の人数が少ない分、み
んな仲がよいように思いま
す。上の先生にはおそわ
る事ばかりで、かなりアホな
質問をするときもあります
が、それにも答えてくれて、
とても申しわけないと思っ
ています。

最後になりますが、今年
の卒業生はけっこう外に出
た人がいました。残った
他の一年目の先生を見かけ
ると、みんながんばってる
なあと思ひ、自分もがんば
らなければという気持ちに
なります。
皆様よろしくお願い致し
ます。



臨床検査技師となつて

検査部 金盛 英里子



私が検査部に勤務し始め
てから、早二カ月が過ぎよ
うとしています。血液・一
般検査室に配属され、様々
な分析機械と格闘しながら
の慌ただしい毎日を通じて
きたためか、あつという間の
二カ月でした。しかしその
一方で、憧れの旭川医大病
院での勤務に期待と不安を
胸に抱きながら臨んだ四月
一日のことが遠い昔のこと
のように思ひ出される今日
この頃です。

検査部に入ったばかりの
頃は、実習生気分を引きず
ったまま、先輩の検査技師
の方につきつきり様々な
事を教わりながら、指示に
従つて仕事をこなしていま
した。教わることのすべて
が新しいことばかりで、失
敗続きの毎日でした。特に
分析機械の操作するたびに
トラブルを発生させてしま
い、仕事の流れを中断させ
周りの方々に迷惑をかける
こともありました。(周り
の方々は、「いつか機械を
壊されるのではないかと
不安だったことでしょうか」
そのような私ですが、国
家試験にも合格し、仕事に
も慣れてきたため、少しづ
つ臨床検査技師としての自
覚をもてるようになってき
ました。以前は指示された
仕事をこなすのに精一杯で
したが、少しずつ様々なこ
とを任せられるようになり
てあります。自分に課せられ
た仕事を、手早く、時間内
に終わらせなければとい
う焦りがあるため、次々に
やつて来る検体と苦手な機
械の間でパニックに陥るこ
ともありますが、自分の意
志で仕事をこなしてゆくこ
とに喜びを感じています。
その一方で、自分の出した
検査結果が本当に正しいの
かを判断することの難しさ
や、それに伴う責任の重大
さを痛切に感じています。
様々な知識を身につけ、多
くの経験を積んで、「これ
が正しい検査結果です。」
と胸をはっていえるよう、
努力してゆきたいと思つて
います。
まだまだ臨床検査技師と
しては半人前で、先輩の方

々の鮮やかな手技や仕事ぶ
りを目にするたびに自分の
未熟さには歯がゆい思いを
抱き、早く一人前になりた
いという思いが募ります。
お給料だけは一人前の臨床
検査技師として頂いている
のですが、給料以上の働き
をできる日が一日でも早く
訪れるよう、がんばりたい
と思っております。

今後は、日常の検査業務
を自信をもって完璧にこな
した上で、進歩し続ける検
査技術に対応するため、い
ろいろと勉強してみたいと
思っています。

現在の私は、臨床検査技
師としてのスタートライン
に立つたばかりですが、終
わりのないゴールをめざし
て一歩一歩、着実に歩んで
ゆきたいと思っております。



看護婦になつて

寺島直美



私が、白衣を着て病棟で働くようになって、あつという間に二カ月が過ぎました。いつの間にか、あの冬の寒さも消え、今では春の香りを感じます。今、振り返ると、時間は刻々と過ぎて、いるのに、一カ月前の自分と何一つ変わりのない、成長のない自分に焦りを感じています。今は職場という環境に慣れることと、仕事を一つ一つ覚えていくことに精一杯です。又、三交代の勤務では、三つの仕事の流れや内容を覚えて、自分の体調を整え、とにかく一日一日少しでも自分の仕事を覚える事に気持ちがいっぱいです。何をやるにも、先輩看護婦さんのアドバイスや御指導を受け行動しているように感じます。学生の時のように、一人の患者さんにじっくり関わり、疾患を学習し、その患者に適切な個別ある看護を自分で

まで頑張つて来ました。いろいろな面で挫折する事もこれから先まだあるかもしれせん。でも、看護婦になるという道を自分で決めた事を思い返し、頑張ろうという気持ちを持ち続けていきたいと思ひます。まだまだスタツフの皆様から御指導を受けた事で、自分の力となつていない事

要領が悪く、自信が持てない自分。失敗ばかりでスタツフの皆様や患者さんには御迷惑をおかけしている事を、深く反省しておりま

患者さんに「看護婦さん」と呼ばれて照れくさくなる時や、本当に自分は看護婦なのだろうかと思う事も多々あります。しかし、一カ月しかたつていない自分でも、患者さんの心の支えになることができる、一人の看護婦なのだ感じる事もあります。手をギユツと握りあつて一つの処置を乗り越え、患者さんから「手を握つてもらつたから頑張れた」と言葉をかけてもらえた時、自分に少しだけ自信が持てたように感じました。まだまだ、患者さんに支えられやつてこれた事も多くあります。小学生の頃から看護婦になりたいと思ひ続けて親元も離れ、患者さんの心の支えになる看護婦を目標に今

それぞれ病棟での勤務が始まり、看護婦としてのスタートをきつてから早くも二カ月が過ぎようとしています。不規則な生活にとまどいながらも、日勤、準夜勤、深夜勤と一通りの勤務帯を経験して、看護婦という職業に就いたことを実感しています。まだ、看護学生だった頃には、毎日、実習記録に追われながらも、ひとりの患者さんにかかりつきりになることができませんでした。実際に臨床の場に飛び込み、大勢の患者さんを対象に把握していかなければならない今、学生時代が懐かしく思い出されます。しかし、毎日の繰り返しの中で、たくさん患者さんとの出会い、そして、多くのことを経験させてもらえることに看護婦という仕事の楽しさを感じ始めています。患者さん



はじめは、患者さんを目の前に、この患者さんはどんなことに気をつけて関わっていかなければならぬのだろうか、看護記録にはどのようなか、どのよう送ればいいのか、どのよう中を駆けめぐり、不安な気持ちでいっぱい毎日でした。こちらの緊張が患者さんに伝わってしまったわらないように、患者さんたちはじめはきつと、私の存在に身構えているに違いない、早くうちとけなければ、とそんな焦りと不安の連続で毎日が過ぎてきたように思います。今、なんとなくですが、自分のペースをつかめてきたように思います。何もかもがわからないことばかりで、与えられたことも満足にこなせず、そんな自分に怒りを覚えたり、自信を失ってしまうことが、今まで何度も数え切れないほどありました。先輩たちの姿を

看護婦としてのスタートをきつて

寺島直美



見て、私もあんなふうにてきばきと仕事ができるようになるのだろうか、と悩んでしまいます。しかし、焦らずに落ち着いていくことで、ようやく自分のペースがわかつてきたように思います。業務に振り回されるのではなく、しっかりと整理して、今、自分がなすべきことは何なのか、自分にできることは何なのか、そこからスタートしていきたいと考えています。

看護学生の頃にも増して責任は重く、小さなミスも大きな事故につながりかねません。その責任に押しつぶされないように、自分を見失わず、しっかりと自分の姿をみつめて、頑張っていきたいと思ひます。患者さんの笑顔に助けられている、そんな情けない自分を少しづつ卒業していきたいです。そして、一日も早く、笑顔で患者さんを受け止められる、余裕をもつた看護婦に成長できるよう、頑張りたいと思ひます。



今、なんとなくですが、自分のペースをつかめてきたように思います。何もかもがわからないことばかりで、与えられたことも満足にこなせず、そんな自分に怒りを覚えたり、自信を失ってしまうことが、今まで何度も数え切れないほどありました。先輩たちの姿を

今を生きる

尾関 邦彦

尾関 邦彦 対談



尾関



両国

尾関 外来担当の両国です。入院を担当している尾関です。

両国 突然ですが、今の社会福祉問題って深刻ですね。

尾関 そうですね。年配の方々は、『これからは、今の若い人たちが、がんばらなければいけない。』

尾関 と言うけれど、しかし、実際のところ、若い僕達はどうしたらいいのかわかりませんよね。

両国 いや、僕にはわかりませんが、僕にはいいので

尾関 仕事だよ、仕事。しかし、仕事仕事の毎日では、ストレスがたまつて過労死してしまいますよ。

両国 そうだよな、『過労死』は今や社会問題のひとつとして取り上げられているものね。

尾関 病院の事務として働いている僕達は、日々病名と戦つていましてからね。仕事をやるたびに、体には気を付けようと思えますね。

両国 旭川は、東京とちがつて、ゆつくりと時間が過ぎていくから、どんな人にとつてもいい環境だと思つてよ。そうですよ。しかし超氷河期と呼ばれている就職問題、高齢化社会、少子化問題、どれを取り上げてみても大変な問題ばかりで、本当に『今を生きる』のは大変です。

両国 だからこそ、僕達みたいな若い人ががんばらなければいけな

尾関 いんだよ！ わかりましたよ、両国さん。つまり、これからの僕達が今の日本を支えていかなければならないということですか？

両国 これからの社会を考えると、『病院』に社会が求めるものはより多くなつていくと思うよ。

尾関 どうしてですか。病院に来院する人々の数は、年を重ねるごとに増加傾向にある。また、HIVのように新しい病気が登場するなど、必然的にそれ相応の解決策が必要になる。

尾関 僕は医療関係の仕事を始めただばかりですけれど、これにたずさわる人間として、現在、かつ未来の医療問題についてより多く勉強し、早く適切な対応ができるように努力しなければいけないのです。

尾関 僕達新人は、諸先輩の叱咤激励に助けられ、医事課の星への道を邁進していきま

いま、気になる病気、話題の病気⑤

遅延性術後疼痛 (Delayed Postoperative Pain)

Dr. Yumiko Matsuda
Dr. Kenjiro Matsuda
麻酔科 蘇生科 編

手術後の痛みは合併症など起こさなければ四十八時間といわれてきた。いまだに術後、患者が痛い訴えと、そりゃあ手術をしたのだからある程度の痛みはありますよ、二三日すると段々良くなりますから、と言つて患者に我慢を強いる傾向がある。確かに数日後には痛みはなくなり、患者もやれやれとほつとするが、何れ消えるからと言つてこの様な術後痛を我慢させることは益が無いばかりか実は甚だ有害なのである。何年も経つた古傷が痛むという表現があるが、手術を受けた部位の痛みが数カ月はおろか何年経つても良くならないことがある。いわゆる遅延性術後疼痛 (Delayed Postoperative Pain) なる状態であるが、一旦このようになってしまうとその治療はなかなか一筋縄では行かない。開胸術や上腹

なされるようになった。遅延性疼痛の予防対策 慢性痛の発生機序がそうであるならば、術中の麻酔管理面でも相当考え直す必要がある。痛みが起つた時の鎮痛処置としては、中途半端ではなく完全な無痛であることが望まれること。いま一つは痛みが起つてしまつてからではなく、起る前から除去する (pre-emptive analgesia)、先行型鎮痛) のが望ましい、ということになる。このような考えに基づいて以前より全身麻酔に硬膜外麻酔の併用がなされてきたが、最近では麻酔前投薬に鎮痛薬と NSAIDs を併用したり、術中は局麻や硬膜外麻酔の他にオピオイドやさらに NMDA 受容体拮抗薬 (ケタミン) を、術後もそれらを持続的に投与し、定期的に NSAIDs も使用するといった balanced analgesia も試みられている。

ではこれで術後痛は解決されるかというと、決してそのように簡単なものではない。個人差も大きく、臨床的どの程度の侵害刺激が脊髄ニューロンの感度を増大させ、どの程度の鎮痛方法で抑制できるのかについてはまだまだ解っていない。今後の臨床研究による所が甚だ大きいのである。

(教授 小川 秀道)

【薬剤部】

新薬紹介(28)

塩酸フアドロゾール
(アフエマ錠)

乳癌は他の固形癌と異なりホルモン依存性の腫瘍として知られています。その治療法は外科的、放射線、抗癌剤による化学療法と並んで内分泌療法が用いられています。

その内分泌療法は、乳癌の発生と増殖に深く関与しているエストロゲンをいかに低下、あるいは消失させるかにあります。そのため、エストロゲンの産生に寄与する主な発生源である卵巣、副腎、さらには下垂体摘出などの外科的内分泌療法が行なわれてきました。しかし、摘出術は侵襲も大きく、またコルチゾールなどの生命維持に不可欠なホルモンを生産補充する必要があるので、現在ではほとんど行なわれていないとのことであります。

リン、ゾラデックス[®]デポ)などがあります。これらは、最近の多剤併用の化学療法に比べて、奏効率やや劣るものの、重篤な副作用がないうえに、奏効期間が長く生存期間の延長にも寄与しており、患者さんのQOLの面からも、近年その有用性が注目されています。この一群に新たに加わったのが、これまでの薬剤とは異なった作用機序を有するアロマターゼ阻害薬である本剤であります。

アロマターゼは、コレステロールに始まるステロイド生成系において、エストロゲンが生成される最終段階に關与する律速酵素であります。この系では、アロマターゼ以外にもいくつかの酵素が関与しており、いずれを阻害してもエストロゲンの生成を抑制します。しかし複数の酵素を阻害する薬剤は、コルチゾールやアルドステロンといった副腎ステロイドホルモンをも抑制するという欠点があります。そこでアロマターゼだけを選択的に阻害する本剤は、副腎ステロイドホルモンの生成には影響を与えず、エストロゲンの生成のみを抑制するという特徴を持っています。エストロゲンは、閉経前後で生成場所が異なります。同様にアロマターゼの存在も閉経前は

主に卵巣ですが、閉経後は末梢(主に脂肪組織)に多く認められるため、閉経後乳癌では、卵巣外でのアロマターゼによるエストロゲン生成を阻害することが治療上重要といえます。

閉経後乳癌患者を対象とした臨床成績において、一回1mg一日2回投与176例での奏効率(著効十有効)は93%、不変は長期例も含めて37%と報告されています。副作用は278例中25例(9.0%)に50件認められ、主なものは嘔気・嘔吐2.9%、食欲不振2.5%、疲労感1.8%、めまい1.4%など、ほとんどが軽度なものとなっております。

一般的注意事項として、本剤を卵巣機能が正常である閉経前の患者に使用した場合、血中のエストロゲン値の低下によるネガティブフィードバック機能に基づき、下垂体からのFSH、LHの分泌増加、エストロゲンの分泌増加が起り、卵巣腫大の副作用や治療効果の減弱、悪化の可能性が考えられています。またこのようなエストロゲンの分泌を打ち消すには、本剤をより高用量使用することが必要になります。この結果アルドステロン、副腎皮質ステロイドホルモンなどの産生抑制が起こることが想定されています。以上の理由により一日2mgという

比較的低用量で、閉経後乳癌に対してのみ使用するにととされています。

病院 ニュー ス 大 発 行 の 意 義

この度、旭川医大病院附属病院広報誌編集委員長を仰せつかった。病院ニュースの発行は院内各職場の相互理解を深め、円滑な病院運営に役立てるために行われているが、創刊は昭和五十九年一月十五日号で、これまでに第五十六号を数えている。本誌は原則として年四回の発行で、内容は就任、退官、年頭の御挨拶、新規採用者のフレッシュユボイス、薬剤部、輸血部、放射線部からの情報記事である。発行部数は六五〇部で学内職員はもとより、全国の新設医大に配布され、大学間の情報交換にも役立つ。ところで、最近における医学、医療の進歩は目をみはるものがあり、そのスピードは猛烈である。特に、平成の時代に入ってからにはスピードが加速され、関連領域は大きく変貌し、拡大していることは周知の通りである。例えば、大学附属病院レベルのセンターにおいては医療用最新機器の整備、充実がどんどん進み、将来的にはインターネット

(薬品情報室長 藤田 育志)

等による医療ネットワーク構想も立案されている。つまり、十年一昔という言葉は死語となり、一年一昔、場合によっては一月一昔の時代なのかも知れない。このような変化に対応するには情報の把握と分析が重要であるが、その反面、自分の職務を全とうするためだけに身近な職場状況に日頃から関心をもつことが大切である。その意味で病院ニュースの発行は有意義であり、有用である。

職員全ての皆様が旭川医大病院に理解を深めるために、『旭川医大病院 ニュー ス』が少しでもお役に立つことを願っている。編集委員会のメンバーはより良い病院ニュースを目指して今後努力することを誓っているが、それには職員各位から忌憚ないご意見を賜わることが必要であり、皆様のご協力を切にお願いする次第である。

平成八年度

『病院 ニュー ス』 編集委員

- 委員長 牧野教授 (第二内科)
- 委員 東 講師 (小児科)
- 竹井助教授 (放射線科)
- 西村講師 (歯科口腔外科)
- 信岡技師長 (検査部)
- 藤田薬品情報室長 (薬剤部)
- 坂東副看護部長 (看護部)
- 南山課長補佐 (庶務課)
- 小塚課長補佐 (医事課)

